

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1191900040
法人名	株式会社シルバー自立支援センター
事業所名	グループホームくつろぎの家
所在地	335-0031 埼玉県戸田市美女木1-29-45 (電話) 048-422-3760

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年3月10日

【情報提供票より】(19年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	140,000 円	その他の経費(月額)	30,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (500,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり1,290 ~ 1,333円				

(4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	73 歳	最高	86 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	梅田クリニック、ラビット歯科
---------	----------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、住民参加と助け合い精神に則り設立されたNPO法人が運営する1ユニットのホームであり、2階にヘルパーステーション、隣にはデイサービスセンターが併設されている。また、生活に便利な場所にあり、外観は周囲の住宅に違和感無く溶けこみ、内部も家庭的な雰囲気づくりとなっている。職員は利用者の家族や地域との結びつきを大切に、共に支え合う関係づくりに努めている。きめ細かな声掛けと、その人らしさを尊重したケアの実践は、利用者の心身の機能回復や穏やかな表情へと繋がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価課題については、職員で話し合いながら実践に取り組んだり、さらに課題を掘り下げつつ現状に合わせ、可能な限り改善に前向きに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、全職員で取り組んでいる。前回の評価結果の課題については、職員で話し合いながら、改善に向け前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、19年4月に1回、地域代表、市担当者、地域包括支援センターの職員、家族、利用者をメンバーとして開催され、双方の情報交換や評価結果が報告されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者ごとに、3ヶ月サイクルでの担当者が決められており、それぞれの職員が近況報告書を作成し、写真を添えて毎月1回、家族に報告をしている。家族会が定期的に開催されており、運営推進会議や介護相談員を通して意見や苦情を伝えやすい仕組みとなっている。また、職員は家族の来訪の時には積極的に声掛けをするなどし、日頃からコミュニケーションを図るよう努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩や買い物時には、積極的に地域の方と挨拶を交わすように努めている。また、自治会、町内会、老人会とも交流があり、行事などにも誘われている。地域住民として地元の人々との交流の機会は深まりつつあるが、利用者の状態や、ホームの事情で地域行事に参加できないこともある。</p>

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心して自分らしく楽しく」暮らせるという理念に基づき、家族や地域との交流、繋がりを大切にするという地域密着型サービスの役割を意識した理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関を入ると正面には理念が掲示され、誰もが日常的に理念を意識しながら、日々のケアにも活かすよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物時には、積極的に地域の方と挨拶を交わすように努めている。また、自治会、町内会、老人会とも交流があり、行事などにも誘われているが、利用者の状態や、ホームの事情で参加できないこともある。		地域住民として、地元の人々との交流の機会は深まりつつあるが、今後さらに、事業所と地域の方が支え合う双方向関係を作ることで行事への参加が円滑に進められるような取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については全職員で取り組んでいる。また評価結果は家族会や運営推進会議に報告し、課題については、職員で話し合いながら、可能な限り改善に向け、前向きに取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表、市担当者、地域包括支援センターの職員、家族と利用者をメンバーとし、19年4月に1回開催されているが、その後の開催日程や議題等は検討中であり、次回の課題となっている。		全てのメンバーの参加が困難であっても、今後、定期的な会議の開催が可能となるよう年間計画を作成するなどし、参加メンバーの方々に会議の意義や役割等を十分に理解してもらいながら、事業所の質の向上に活かせる取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームヘルパー養成研修事業についての連携や介護相談員を受け入れている。また、市担当者と介護相談員のホームへの訪問時には、双方の情報交換がなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者毎に、3ヶ月サイクルでの担当者が決められており、それぞれの職員が近況報告書を作成し、写真を添えて毎月1回、家族に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族会が設けられており、運営推進会議や介護相談員を通して意見や苦情を表出しやすい仕組みになっている。また、職員は家族の来訪時には積極的に声掛けをするなどし、日頃からコミュニケーションを図るよう努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設の事業所間での交代により、顔馴染みの職員を確保するなどして、やむを得ず異動があっても利用者の影響が最少となるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修や年2回以上の研修受講が取り決められており、グループホーム連絡協議会の事例検討会等にも参加している。研修内容についてはレポートが作成され、職員間で共有できるようにするなどし、職員の質の確保と向上に前向きに取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しており、地域の他グループホームとの相互訪問を行っている。それらの機会を通して、日々のサービスの向上や職員育成に励んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前見学や本人、家族との面談を充分に行い、場合によっては、お茶を飲み立ち寄りしてもらうなどし、サービスの利用へと繋げている。隣接のデイサービス利用者が入居に至った事例もある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は共に暮す、共に支え合うという関係を常に念頭におきながら、声掛けや場面づくりに努めている。また、新任の職員が、利用者に励まされ、見守られながら日々を実感している様子も伺える。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のケア、個々の利用者との関わりの中で、表情や言動に注意を払い、利用者の希望や思いの把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃のかかわりの中で、家族や本人の要望を聴き、毎月の会議で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、介護計画の作成に活かしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>設定期間ごと、または状態が変化した際には検討、見直しを行い、実情に応じた介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医のバックアップと管理者が看護師という医療連携体制を活かし、通院や入院の回避、終末期についての取り決めがあり、家族や本人の要望に応じて看取りにも取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医による月2回の往診、利用者の状態に応じた往診が確保されている。入居前からのかかりつけ医の受診については家族と協力しながら支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	すでに看取りの経験があり、重度化にともなう終末についての対応指針が定められている。かかり付けの往診医と管理者(看護師)、職員が連携し、本人や家族の意向を確認しながら支援する体制がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーや誇りを損ねる事のないよう、配慮あるさりげない声掛けにより対応している。また、個人記録は個々にファイルされきちんと保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよそ一日の流れは決まっているが、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、利用者のペースに合わせた柔軟な対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、調理、配膳や下膳など、利用者の力量を活かしながら、食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	殆どの利用者が介助や見守りを必要としている状況であるが、可能な限り、回数や時間帯について利用者の希望に添った入浴ができるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りやモップ掛け等、一人ひとりの力量に応じた役割を見つけて支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買い物や、戸外に出かけることで気分転換やストレスの発散など、利用者本位の外出支援を日々行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者のその日の気分や状態をきめ細かくキャッチしながら対応し、日中は鍵をかけない自由な暮らしを支援している。また、玄関引き戸の上部には大きめのカウベルが下げてあり、戸の開閉時にはベルが鳴る事で、職員は人の出入りをさらに意識できる工夫がなされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームを拠点とした自治会と合同での防災訓練を3月に予定している。なお、昨年度は消防署の協力を得て訓練が実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分等の摂取量はきちんと記録され、職員はそれらの情報を常に確認、共有している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには椅子を収納できる折りたたみ式のテーブルが置かれ、廊下や洗面所、浴室、トイレ等は限られたスペースを有効に活用したつくりとなっている。食堂と兼用の居間には利用者の作品や観葉植物等が飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム側で準備されたものではなく、利用者それぞれが使い慣れた家具や調度品、好みの敷物、カーテンなど個性の感じられる居室づくりがなされている。また、なかには仏壇を持ち込まれている方もいる。		